

産地生産基盤パワーアップ事業
都道府県事業評価報告書（収益性向上対策）

都道府県名														広島県
地域協議会名	整理番号	地区名	対象作物	取組内容	成果目標の具体的な内容	目標数値				事後評価の検証方法 （※定量的な検証ができること。）	達成率	地域協議会等の評価	都道府県における評価	
						計画時	目標 (R5)	実績 (R5)	補正後 実績 (R5)					
安芸太田地域農業再生協議会	2	安芸太田町	施設野菜 （こまつな、ほうれんそう、みずな）	施設野菜（こまつな、ほうれんそう、みずな）産地の形成の促進・パイプハウス資材の導入による栽培面積の拡大 ・町の研修制度を活用した認定新規就農者の新規参入の推進により、販売額10%以上の増加を実現する。	販売額の10%以上の増加	(R1) 54,954千円	87,397千円	58,487千円	51,568千円	①現状値：生産者の令和元年度青色申告の合計（但し、■氏はJA販売額データの合計） ②目標値：生産者の経営計画から算出 ③実績値：生産者の令和5年度青色申告の合計（但し、■氏はJA販売額データの合計） ④達成率：（③－①）/（②－①）×100	-10.5	灌水について、手動で時間やタイミングを調整して実施しているが、圃場条件の影響もあって不均一な灌水となったことで生育不良が発生し、生産量を増加できなかった。さらに、夏季の高温のために品質が低下し、計画通りの販売単価とならなかった結果、成果目標が未達成となった。 生産量増加の対策としては、自動灌水装置の導入により均一な灌水を行うことで生育不良の改善を図る。 単価向上の対策としては、産地として安定した数量の出荷を図るためひろしま活力農業経営者部会を活用し農業者同士の情報交換を密にして経営方向上を図るとともに、暑熱対策や自動灌水装置の導入の横展開により販売単価の向上を図る。 これらの取組により、引き続き成果目標達成に向けて関係機関と連携のもと支援していく。	生育不良により生産量が増えなかったことと、夏季の高温による品質低下により、成果目標が未達成となった。 産地では自動灌水の導入が進んでおり、今後は生育不良の発生頻度や品質低下の減少が見込まれる。産地の生産量と販売単価を上げるために、関係機関で連携し、生産指導と併せて技術・情報の横展開を支援していく。	
世羅町担い手育成協議会	2	世羅町	施設野菜 （軟弱野菜（ほうれんそう、こまつな、しゅんぎく、みずな））	軟弱野菜産地の形成の推進 ①大型生産者の施設整備及び機械導入による安定生産の取組を行う。 ②世羅町産業創造大学（研修制度）を中心とした新規就農者の育成、就業支援により、施設及び露地栽培の生産拡大を図る。 ③生産者・流通業者及び関係団体等からなる世羅町軟弱野菜産地協議会を活用し、生産者・流通業者が相互に連携することで新たな販路の確保、販売額の増加を図る。 これらを推進することにより、町内産の軟弱野菜の販売額10%以上の増加を実現する。	販売額の10%以上の増加	(R1) 9,604千円	42,631千円	41,951千円	37,775千円	①現状値：軟弱野菜産地協議会構成員の令和元年度販売額の合計 ②目標値：軟弱野菜産地協議会構成員の令和5年度の販売額目標の合計 ③実績：軟弱野菜産地協議会構成員の令和5年度の販売額実績の合計 ④達成率：（③－①）/（②－①）×100（%）	85.2	夏季期間の高温による生育不良のために出荷量が増えなかったため、成果目標未達成となった。また、取組主体の圃場においては土壌のpH値が高いことなどにより、計画では5.4回だった回転数が4回転しかできず、出荷量を増えなかった。 今後は目標が達成できるような関係機関と連携し、夏場の高温対策として、側室等をこまめに開放する等、ハウス内湿度の管理についての指導を徹底する。 また、取組主体においては課題となっていた土壌改良に取組みつつ、栽培の回転数増加のための栽培管理等の支援を行うことにより、成果目標の達成を目指す。	夏季の高温による生育不良のために出荷量が増えなかったこと、また、取組主体の圃場においては土壌の課題により回転数が伸びず、出荷量を増加させることができず成果目標未達となった。 今後は関係機関と連携して夏場の高温対策の指導を徹底し、取組主体においては土壌改良に取組みつつ、栽培の回転数増加のための栽培管理等の支援を行う。	
廿日市市地域担い手育成総合支援協議会	1	廿日市市佐伯地区	施設野菜 （ほうれんそう、こまつな、みずな）	施設野菜（ほうれんそう、こまつな、みずな）の産地の形成の推進・経営発展に向けた規模拡大を計画する経営体に、当該事業を活用してパイプハウス資材及び灌水・施肥資材の導入、灌水設備及び冷水のリース導入支援 ・広島県西部農業技術指導所、佐伯中央農業協同組合、及び軟弱野菜部会に加え、廿日市市が連携し、当計画参加経営体の技術交流を促進	販売額の10%以上の増加	(R2) 56,839千円	63,367千円	53,501千円	47,937千円	①現状値：計画参加経営体の令和2年度青色申告書類または決算書から算出 ②目標値：計画参加経営体の令和5年経営計画から算出 ③実績値：計画参加経営体の令和5年度青色申告書類または決算書から算出 ④達成率：（③－①）/（②－①）×100	-136.4	冬の日照不足で回転数を増やせなかったことから、事業実施前よりも生産量が落ち込んだ経営体があり、産地全体の販売額は目標未達成となった。 今後は、冬季のハウスの温度管理の徹底による回転数の増など、生産者個々の課題に応じて協議会メンバーが連携して支援するほか、R4年度に導入したほ場センシング機器を活用し、データに基づく生産管理を支援するなど、産地全体の販売額増大を図り、成果目標の達成を目指す。	冬の日照不足で回転数が増加しなかったこと等により、販売額達成率が目標を下回った。 今後は関係機関と連携しながら、冬季のハウスの温度管理の徹底、ほ場センシング機器によるデータを活用した生産管理手法の改善などの指導を行い、さらなる生産量の増加により目標達成ができるよう支援を行う。	
都道府県平均達成率	28.4%	総合所見	県平均達成率が目標未達成となった。 未達となった要因としては、施設野菜において、夏季の高温障害、冬季の低温による回転数の低下等が影響したと考えられる。 成果目標が未達成となった廿日市市地域担い手育成総合支援協議会、安芸太田地域農業再生協議会、世羅町担い手育成協議会に対しては、目標達成に向けて引き続き関係機関が連携して指導を行う。											